

金沢大学 西太平洋地域のウイルス性肝炎・肝臓制御に向けて



金沢大学大学院先進予防医学研究科システム生物学教授
金沢大学大学院医薬保健学総合研究科消化器内科教授
金沢大学附属病院消化器内科科長 WHO研究協力センター センター長

金子 周一

1982年金沢大学医学部卒業。米国国立衛生研究所(NIH)客員研究員、金沢大学講師、米国南カリフォルニア客員教授、金沢大学助教授を経て2004年より教授。2017年よりセンター長。専門は肝臓病学。

施設の紹介と特徴

当センターは2017年4月17日にWHO西太平洋事務局(WPRO)局長Shin Young-soo博士(当時)からの書簡により、「WHO Collaborating Center for Chronic hepatitis and Liver Cancer (WHO 慢性肝炎肝臓協力センター)」に指定されました。指定を受けて4年目に入った新しいWHO研究協力センターです。指定当時ウイルス肝炎分野において、米国の疾病管理センター(CDC)、オーストラリアのビクトリア感染症研究所(VIDRL)、インドの肝胆道科学研究所に次いで4番目の指定でした。また当施設の名称には「Liver Cancer(肝臓)」が加えられており、肝臓に関して世界で初めての指定施設となっております。

WHOは2015年に全世界では3億2500万人がウイルス性肝炎に罹患し、年間134万人が死亡しているとし、2030年までに新規肝炎感染者を90%

減少させ、肝炎罹患患者数を80%減の600～1000万人に、死亡者数を65%減の50万人に減少させる目標を掲げ、国際保健の重要な課題として取り組んでいます。世界人口の4分の1の人々が生活している日本が属する西太平洋地域は世界のウイルス肝炎による死亡数の40%を占めているため、この地域の取り組みが非常に重要になります。

金沢大学では2014年よりスイスジュネーブのWHO本部に肝炎専門の教員を5名順に派遣しウイルス性肝炎のWHOガイドラインの作成業務などに携わりました。さらに2015年からWPROにも教員を派遣し、専門家としてWHO肝炎プログラムへの助言、実施、解析などを行ってきました。またWHOとともにモンゴル、ベトナム、中国と国際肝炎シンポジウムを開催しウイルス性肝炎の啓蒙活動も行ってきました。このようなWHOとの共同活動が評価され研究協力センターとして指定されました。このような経緯から当センターのスタッ

フは肝炎の診療経験がある臨床医でかつWHOで業務経験のある人材により構成されています。

当施設の活動概要

当センターの委託事項(Terms of Reference: TORs)は2つあり、1つ目はWPROの肝炎対策計画に沿ってその目標達成のためにWHOをサポートすること、2つ目はWHOが各国に行う慢性肝炎および肝臓に対する活動に対して技術的支援をすることです。このTORsに沿って行う具体的な活動内容として、(1)WHO肝炎ガイドラインに沿った医療者向けトレーニングモジュールを開発する、(2)WHOが発行したガイドラインの普及と実践のために地域事務局とともに活動を行う、(3)慢性肝炎・肝臓の管理に対する新たな医療サービス提供モデルの開発をサポートするという3つの活動を行っていくことになっています。

トレーニングモジュール: Version 2.0 (2018年11月)			図1 当センターウェブページのトレーニングモジュール公開サイト		
モジュール 1a			モジュール 1b		
Basic modules for hepatitis			Standard modules for hepatitis		
Hepatitis Basic module			Hepatitis Standard module		
モジュール 2a			モジュール 2b		
Basic modules for HBV			Standard modules for HBV		
HBV Basic module			HBV Standard module		
モジュール 3a			モジュール 3b		
Basic modules for HCV			Standard modules for HCV		
HCV Basic module			HCV Standard module		
			モジュール 2c		
			Advanced modules for HBV		
			HBV Advanced module		
			モジュール 3c		
			Advanced modules for HCV		
			HCV Advanced module		

肝炎トレーニング モジュール作製

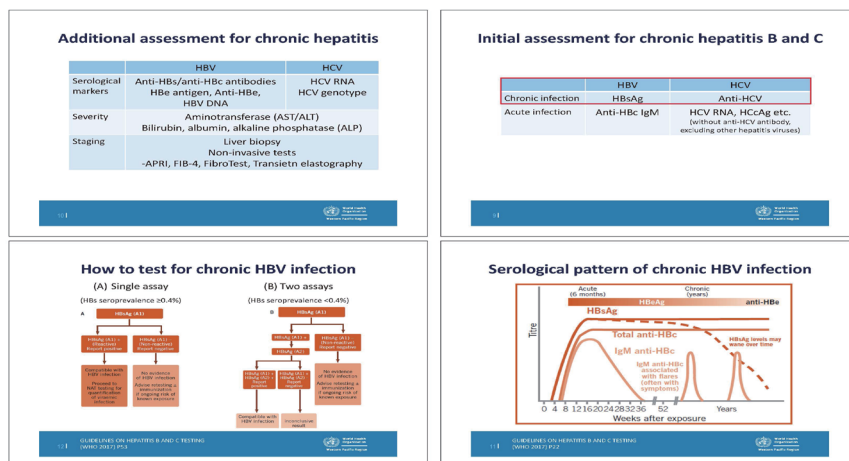
西太平洋地域ではB型肝炎ならびにC型肝炎に関する知識が十分普及しておらず、医師だけではなく医療従事者や政策担当者を対象にウイルス性肝炎の基礎知識からWHOガイドライン実践に対する知識の教育のためのトレーニングモジュールをWPROの医官とともに作製しました。最新のWHOガイドラインを基に、肝炎対策の要点を簡潔にわかりやすくパワーポイント形式で作成しています。ウイルス性肝炎に携わる医療従事者や政策担当者の習熟度別にベーシック、スタンダード、アドバンスのモジュールをそれぞれ作製し、当センターのウェブサイト (<http://www.m-kanazawa.jp/whocc/index.html>) に公開してあります(図1.2)。

このトレーニングモジュールを用いてWHO南東アジア地域事務局(SEARO)とインドのWHO研究協力センターとともにアジア各国代表の医療関係者に対して肝炎のワークショップを2017年と2018年に開催し、その後、両地域共通のトレーニングモジュールとしてアップグレードしたものを作製しました。このトレーニングモジュールについてはWHOの検閲の後に近々公開される予定です。

またこのトレーニングモジュールを用いてモンゴルで実際にトレーニングを行うマスタートレーナーに対するモジュールの使い方の指導も行いました(写真3)。

WHO肝炎ガイドラインの普及と実践のための活動

WHO肝炎ガイドライン普及のためにWPROとともに2018年11月にベトナムハイフォンで、2019年5月にモントゴルウランバートルで国際肝炎シンポジウムを共催し、日本、中国、モンゴル、ベトナムの各国の肝炎の基礎から臨床までの情報交換と各国の問題点について議論を行いました(写真4)。



WPROとともに地域内の各国のウイルス性肝炎対策の現地調査にも協力しています。2017年にはモンゴルとカンボジア、2019年にはモンゴルの現地調査を行いました(写真5)。

またWHO、おもにWPROが主催する肝炎に関する様々な会議に肝炎専門家として参加して助言を行ったり、WHOとともにシンポジウムを開催したりしています。

日本の肝炎対策の現況も広めるために、WPROの医官の助言により2018年に日本の肝炎対策の現状を報告するビデオを作製しWPROの公式Twitterで公開

しております(写真6)。また日本の肝炎対策のモデルとして、石川県モデルとその効果を報告する論文も準備中です。

WPROの各国が作製した肝炎診療ガイドラインに対して肝炎専門家としてレビューなどの技術的支援も行っています。これまでラオスとカンボジアのB型肝炎およびC型肝炎ガイドラインのレビューを行いました。

このようにWHO肝炎ガイドラインの普及と実践のためにWPROの肝炎専門医官と密に連絡を取りWHO研究協力センターとしての活動を行っています。



写真3 モンゴルでのマスタートレーナーへのトレーニングワークショップ集合写真



写真4 モンゴルで開催した第5回ウイルス性肝炎国際シンポジウム



写真5 モンゴルでの肝炎調査



写真6 WPROのサイトで公開されたビデオ